四日市公害と環境未来館

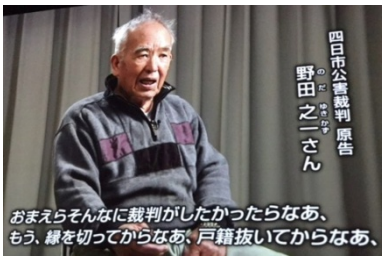
年末に亡くなった澤井余志郎さん、公害裁判原告の一人である野田之一さんをはじめ、多くの人が待ち望んでいた「四日市公害と環境未来館」が昨年 3 月に開館した。近鉄四日市駅近くの市立博物館の 2 階などだ。

開館を推進した田中俊行市長は、案内リーフレットで次のように述べている。「当館では、四日市公害の発生に至る経緯や被害、環境改善に向けたさまざまな方策等について、子どもから大人までを対象に、映像や写真、絵本などを用いてわかりやすく展示しております。

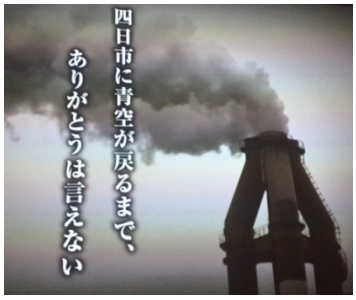
---- 未来へ、より良い環境を引き継いでいくために当館で学び、家庭や地域での環境活動につなげていただければ幸いです。」

展示エリアは、「産業の発展とくらしの変化」「公害の発生」「まちづくりの変遷」「環境改善の取り組み」「現在の四日市」「環境先進都市四日市」からなり、ビジュアルに歴史を知ることができる。一周して、じっくり見ると時間がかかる。

エリアの一角に「四日市公害裁判シアター」がある。「1967 年、磯津の公害認定患者がコンビナート企業を相手に裁判を起こします。当時の資料や証言を交えた映像から、四日市公害裁判とその影響を解説しています」とある。20 分の映像であるが、裁判に至る困難な状況や裁判の経過が何人かの証言で綴られる。野田さんと澤井さん、そして若き野呂汎弁護士、宮本憲一先生らの証言がとりわけ心に響く。野田さんの「四日市に青空が戻るまで、ありがとうは言えない」という原告勝訴判決の日の言葉も印象に残る。



1 階の「研修・実習室」は、12 月 11 日のレポートで紹介したが、昭和 40 年頃の塩浜小学校をイメージしている。ここで野田さんと澤井さんが並んで、「語り部」として小学生に話している写真を思い出した。



ぜひとも多くの人に「四日市公害と環境未来館」を訪れてもらいたい。過去から、現在そして未来を学ぶために。

（2016 年 1 月 18 日）